

鴈の歌

北陸沿線客舎にて 久留島 武彦

左の書翰は本會客員久留島早蕨園長が北陸地方旅行中より特に編者に寄せられたものであります。北陸の秋の旅に此の唱歌を傳られたといふこと、それを直に鴈信に托して都に送つて下さつたといふこと、そこに趣味横溢するものあるを思ひまして、わざとお手紙の文面そのまゝに掲載することに致しました。即ち此の手紙は久留島氏から會員諸君へ宛てられたものと見てよろしからうと思ひます。皆さんも樂譜にあはせて遊戯を試みて下さい。(編者)

昨夜満月、垂穂の稻の上に照り輝きて、冷氣窓より侵入る北陸の列車中、不圖尋常一年の唱歌集中にある『出た〜月が』の一節を想出で、數日前弊園にてこれに遊戯をつけたる事など考へゆく内これに附てうたはせたらばと左の如きもの出來上り候、未定稿ながら御笑草迄御目に懸け候

鴈の歌(樂譜は「出た〜」
月がしの譜による)

來た〜鴈が

高い〜中空に

竿のやうに、渡つて

《遊戯》來た〜で鴈の組は一整に席を立ち、鴈がで兩手

アレ〜なくよ

淋しい〜彼の聲は

風が寒いと、なくか

《遊戯》第二節は鴈の組は黙つきながら尙行進を隨意の

方向につける。

周圍の組はアレ〜で鴈をゆびさし、或は手をたたくもよし、淋しい〜で兩手で胸を抱き、風がさむいとなくかで肩を縮くめ脇を脇につけて身をいさゝか蹲める、

を低くひろげ、一列に隨意の方向に行進を始める
高い〜中空をで翼にした兩手を更に肩より高く
上げ、はたつきしなから進み、竿のやうになつ
て遊戯室の中央に向け、正しく一直線に方向を更
め、すむ。

いや／＼鴈は

元氣なく強い鳥

月をたづねて、ここに

〔遊戯〕鴈の組はいや／＼で頭をふり、元氣よく羽ばた

きしながら、いろ／＼の方向に行進す、

周囲の組はいや／＼で姿勢を正し、鴈の行進を注視す、

右は前申し候如く『出た／＼月が』の遊戯に續けて行はしむる考にて、假りに一組を二つに別ち一半を月の組、一半を鴈の組とならしめ、先づ月の組より月の唱歌に入らしむ。

出た／＼月がで月の組一整に立ち前圓い／＼

まんまるいで互に手をとりに右に盆のやうな

月がでつないだ手を放し兩側より上に

隠くれた月がで袂又は兩手で顔をかくす黒い

／＼眞黒いで顔は下向きに、蹠んたまい兩手を上に、

右に動かす、闇中墨のやうな雲にで再び袂又は兩

また出た月がで皆一整に起上り圓い／＼眞

圓いで前の如く手をつ盆のやうな月がで前の

に月をつくる

鴈の歌は直ぐこれに續けて遊戯せしむる考にて、

月の第三節が終ると共に月の組も鴈の組も同音に

『来た／＼鴈が』をうたう、

此の時月の組は右(或は左り)向きに一列となり

歌と共に手拍子とりつゝ、行進を起し、鴈の組の出

来るのをさけて、次第に外輪にひろがり、鴈のう

たをうたひつゝ、自席に還らしむるもよく亦大圓を

描いて鴈の組の外に立たしむるもよしと存候。

斯くして鴈の歌終りがけに、月をたづねてここに

と繋ぎ置き候らへば今一度月の組を立たしめ、鴈

の組に交替せしめて月に終りたる空の鴈に風情を

添へていよ／＼澄み渡る月に結ぶも面白からんな

ど考へ居り候。

月の遊戯は弊園にて既に實驗致すところながら

鴈の方は今車中の想付き果して都合よく運ぶか如何かは一つ御試しを願上候。(九月十四日)